

基礎 データ	○サル分布状況:瀬沢群 50頭、鳶木群 50頭、花場群 150頭 【加害レベル】いずれもレベル3(目安:通年農地に出没し、農作物に被害を及ぼす)
	○農作物被害額(H28):1,489千円 【作物種別】トウモロコシ、ネギ、カボチャ、ブルーベリーなど
	○進入防止柵(集落柵)の設置:51.1km 【柵の種別】ネット柵(通電あり・なし)、電気柵、金網複合柵
	○サル捕獲頭数(H28):瀬沢群 9頭、鳶木群 16頭、花場群 26頭
	※第一次 富士見町サル被害対策プロジェクトより引用

サル被害対策の現状と課題

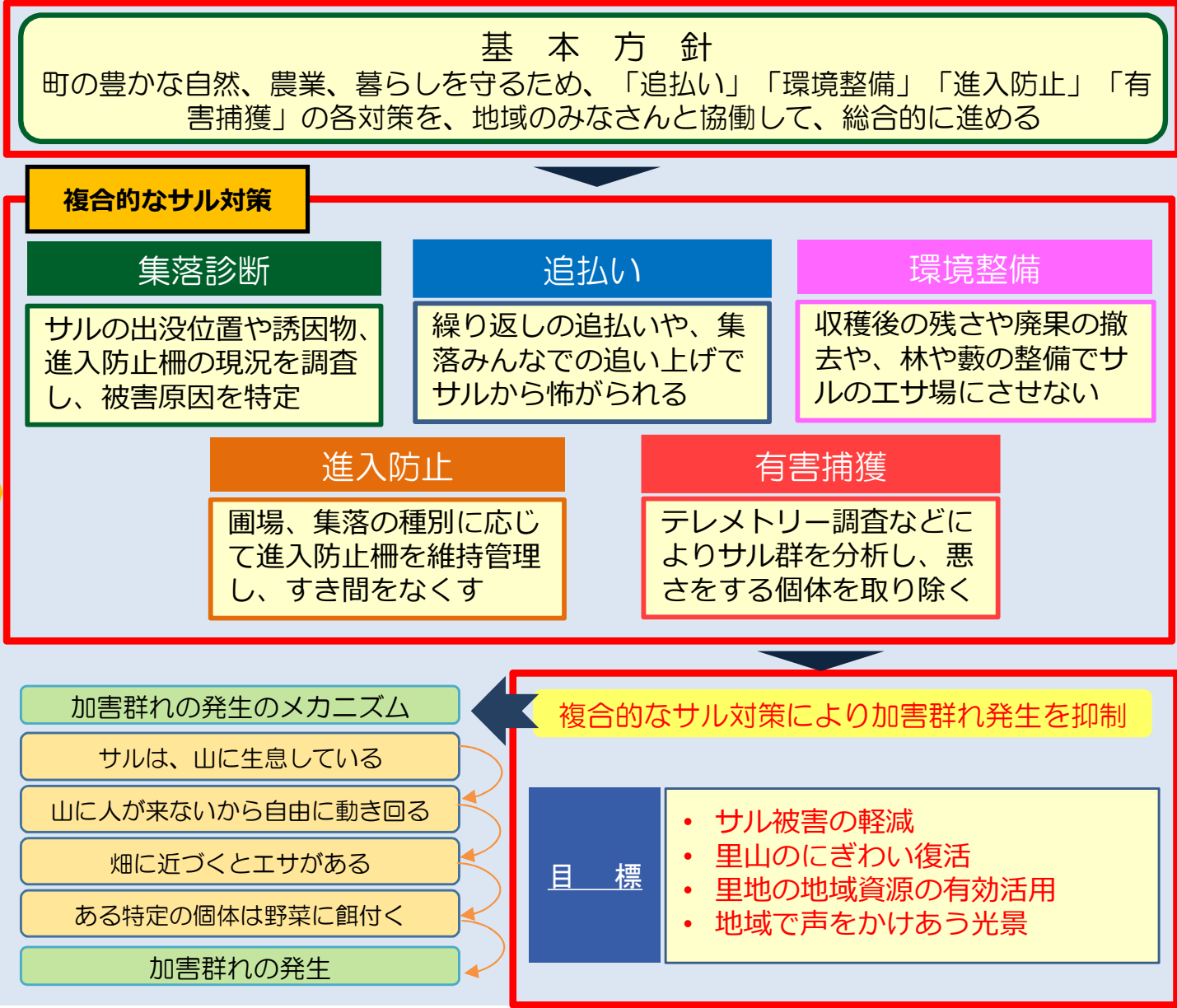
第一次 富士見町サル被害対策プロジェクト(平成三十年三月)

<追払い>
被害農家個人レベルでの実施
➢集落全体での追払いの実施

<環境整備>
誘因物の残存、緩衝帯未整備箇所
➢誘因物の現況把握、緩衝帯整備の実施

<進入防止>
集落柵設置事業の完了も、通電しなかったり隙間があったり、そもそもサル対策に向いていないものも
➢資材支給などで不良箇所の修繕をサポート、電気柵監視通報システムの有効活用、農地ごとの電気柵設置

<有害捕獲>
通年、特に冬期に集中して捕獲を実施するも、徐々に捕獲されにくくなっている
➢テレメトリー調査などによりサル群れ情報・行動特性を把握し、計画的に捕獲



基礎
データ

- サル分布状況：瀬沢群 40頭、鳶木群 35頭、花場群 100頭、平岡群 40頭
 - 加害レベル：瀬沢群・鳶木群 レベル4（目安：群れの全個体が通年耕作地周辺に出没、常時農作物被害、人慣れしている）
花場群・平岡群 レベル3（目安：群れのおおむねの個体が季節的に耕作地に出没、季節的に農作物被害、人慣れし始めている）
 - 販売用農作物被害額：125千円【作物種別】トウモロコシ、カボチャ、ブルーベリー、トマト、ジャガイモ、ダイコンなど
 - 賦存進入防止柵（集落柵）：50.3km【柵の種別】ネット柵（通電あり・なし）、電気柵、金網複合柵
 - サル捕獲頭数（計画期間累計）：198頭（瀬沢群31頭、鳶木群66頭、花場群93頭、平岡群8頭）
- ※令和5年度第二種特定鳥獣管理計画（ニホンザル）
年次計画（富士見町計画）より一部引用

集落
診断

- GPSデータを引き続き収集し、環境整備や有害捕獲の基礎資料として活用
- 富士見台地区でサル対策委員会が発足。サルの生態把握や目標設定に協力

追払い

- 集落からの申請に基づき、追払い資材の支給
- ホームページのサルマップを通じて、住民のみなさんの追払いの実施状況を共有。ホームページに追払いマニュアルを掲載
- 農家の方との現地立会いや広報お知らせ版9月号で、追払い方法について案内

環境
整備

- 田端地区で進入防止柵設置予定箇所に長さ175m、幅おおむね5m以上の緩衝帯を整備
- 小手沢・上鳶木地区で、森林環境譲与税を活用しての里山整備事業（間伐）を実施。令和5年度も上鳶木・坪平地区での事業を計画
- 山へ行こう補助事業を開始。民有林の下草刈りなどの森林整備を支援
- 農家の方との現地立会いや広報お知らせ版9月号で、誘引果樹ややぶ払いなどの環境整備を案内
- 上鳶木区、富士見高校、社会福祉協議会と連携して、サル柿合戦プロジェクトを再興

進入
防止

- 上鳶木地区で、長さ500mの進入防止柵の設置工事
- 先能地区で、長さ65mの進入防止柵の設置工事
- 神代地区で、長さ238mの進入防止柵の張替え工事
- 下鳶木地区で、長さ50mの進入防止柵の張替え工事
- 集落からの申請に基づき、進入防止柵の補修等の資材を支給
- 個人の農地に設置する電気柵の資材費に補助金を交付
- とちの木、南原山、瀬沢新田、烏帽子、高森、田端地区で7件の補助を実施（一部信州諏訪農業協同組合と連携）
- 電気柵監視通報システムのアカウント等を集落へ案内
- 御射山神戸区では、毎日電気柵監視通報システムを利用することで、迅速な修繕につながっている

有害
捕獲

- 富士見町猟友会に通年の委託をし、冬期（11月～2月）は専門業者と連携するなど、34頭のサルを捕獲（瀬沢群6頭、鳶木群10頭、花場群18頭）
- うち、11月～2月の捕獲は13頭。
- わな監視通報システムを活用しての捕獲を実施。
- GPSデータを富士見町猟友会と共有、瀬沢新田集落組合の協力のもと、集落周縁での銃猟・追払いを実施